

Ⅲ 指導要録に記載する事項と記入上の注意

【記入上の全般的注意】

- ① 記入に当たっては、原則として常用漢字及び現代仮名遣いを用いる。固有名詞はその限りではない。
- ② 手書きによる記入の際には、黒のペン又はボールペン書きとする。
- ③ 追加・訂正・変更等にそなえ、なるべく上部左寄りに記入する。
- ④ 記入事項の変更があった場合には、その都度記入する。
消除等の場合は、2本線を用い、前に書かれた事項が読めるようにし、必要に応じて、これらの年月日（例 R2.10.1）を記入しておく。

【学籍に関する記録】

学籍に関する記録については、原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。

1 児童の氏名、性別、生年月日及び現住所

原則として学齢簿の記載に基づき記入する。

2 保護者の氏名及び現住所

「氏名」の欄には、児童に対して親権を行う者を、親権を行う者のいないときは、後見人を記入する。

「現住所」については、児童の現住所と同一の場合には、「児童の欄に同じ」と略記する。

3 入学前の経歴

小学校に入学するまでの教育又は保育関係の略歴（在籍していた幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所又は認定こども園等の名称及び在籍期間等）を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。

4 入学・編入学等

(1) 入学

児童が第1学年に入学した年月日を記入する。

この年月日は、市町立学校にあっては、市町教育委員会が通知した入学期日、その他の学校にあっては、学校において定めた入学期日を記入する。

この場合は、「第 学年編入学」の文字を2本線で消除する。

(2) 編入学等

第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合、又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について、その年月日、学年及び事由等を記入する。

この場合は「第1学年 入学」の文字を2本線で消除する。

5 転入学

他の小学校及び特別支援学校小学部（以下「小学校等」という。）から転入学してきた児童について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

6 転学・退学等

他の小学校等に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても併記する。

在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童が退学する場合は、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

なお、就学義務が猶予・免除される場合又は児童の居所が1年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

転学・退学等	(令和 年 月 日)	←	児童が転学のため学校を去った日
	令和 年 月 日	←	転学先の学校がその児童を受け入れた日の前日
	例 ・転学先学校名		
	・所在地		
	・転入学年及びその事由等		

7 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。
原則として3月末であることが適当である。

8 進学先

進学先の学校名及び所在地を記入する。

9 学校名及び所在地

分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

10 校長氏名印、学級担任者氏名印

各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。（同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。）

押印については、記入について責任を有する校長及び学級担任者が、学年末又は児童の転学・退学等の際に行う。

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。）を行うことで替えることも可能である。

【指導に関する記録】

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評価）、道徳科の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

なお、障害のある児童について作成する個別の指導計画に指導要録の指導に関する記録と共通する記載事項がある場合には、当該個別の指導計画の写しを指導要録の様式に添付することをもって指導要録への記入に替えることも可能である。

1 各教科の学習の記録

小学校における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評価について記入する。

(1) 観点別学習状況

小学校における観点別学習状況については、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小学校における各教科の評価の観点について、設置者は、小学校学習指導要領を踏まえ、「V-2 各教科等の目標、評価の観点及びその趣旨」を参考に設定する。

(2) 評価

小学校における評価については、第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評価は、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

評価に当たっては、評価は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評価を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評価の適切な決定方法等については、各学校において定める。

2 特別の教科 道徳

小学校における道徳科の評価については、28文科初第604号「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校、及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」に基づき、学習活動における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。

3 外国語活動の記録

小学校における外国語活動の記録については、評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領に示す外国語活動の目標を踏まえ、「V-2各教科等の目標、評価の観点及びその趣旨」を参考に設定する。

4 総合的な学習の時間の記録

小学校における総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点的うち、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

評価の観点については、小学校学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて「V-2各教科等の目標、評価の観点及びその趣旨」を参考に定める。

5 特別活動の記録

小学校における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点到照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

評価の観点については、小学校学習指導要領に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において「V-2各教科等の目標、評価の観点及びその趣旨」を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。記入に当たっては、特別活動の学習が学校や学級における集団活動や生活を対象に行われるという特質に留意する。

6 行動の記録

小学校における行動の記録については、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、設置者は、小学校学習指導要領の総則及び道徳科の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している「V-3行動の記録の評価項目及びその趣旨」を参考に、項目を適切に設定する。また、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

7 総合所見及び指導上参考となる諸事項

小学校における総合所見及び指導上参考となる諸事項については、児童の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。特に④のうち、児童の特徴・特技や学校外での活動等については、今後の学習指導等を進めていく上で必要な情報に精選して記述する。

- ① 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。

さらに、障害のある児童や日本語の習得に困難のある児童のうち、通級による指導を受けている児童については、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を端的に記入する。通級による指導の対象となっていない児童で、教育上特別な支援を必要とする場合については、必要に応じ、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を端的に記入する。なお、これらの児童について個別の指導計画を作成している場合において当該指導計画に上記にかかわる記載がなされている場合には、その写しを指導要録の様式に添付することをもって指導要録への記入に替えることも可能である。

8 出欠の記録

以下の事項を記入する。

(1) 授業日数

児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

(2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等児童又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- ⑤ その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(3) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

(4) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。

(5) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

令和元年10月25日付け元文科初第698号「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」では、不登校児童への支援に対する基本的な考え方として、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があると示されていることから、以下の扱いをする。

① 不登校児童が学校外の施設において相談・指導を受けるとき、当該施設における相談・指導が当該児童の社会的な自立を目指すものであり、かつ、当該児童が現在において登校を希望しているか否かにかかわらず、当該児童が自ら登校を希望した際に、円滑な学校復帰が可能となるよう個別指導等の適切な支援を実施していると評価できる場合、校長は指導要録上出席扱いとすることができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び児童が通所又は入所した学校外の施設名を記入する。

② 不登校児童が自宅においてICT等を活用した学習活動を行うとき、その学習活動が、当該児童が現在において登校を希望しているか否かにかかわらず、自ら登校を希望した際に、円滑な学校復帰が可能となるような学習活動であり、かつ、当該児童の自立を助けるうえで有効・適切であると判断する場合、校長は指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び児童が通所又は入所した学校外の施設名を記入する。

平成30年9月20日付け30文科初第837号「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱等について（通知）」に沿って、病院や自宅等で療養中の病気療養児に対し、受信側に教科等に応じた相当の免許状を有する教師を配置せずに同時双方向型授業配信を行った場合、校長は、指導要録上出席扱いとすること及びその成果を当該教科等の評価に反映することができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び病気療養中の授業配信によることを記入する。

平成27年7月31日付け27文科初第335号「一時保護等が行われている児童生徒の指導要録に係る適切な対応及び児童虐待防止対策に係る対応について（通知）」に沿って、一時保護が行われている児童が児童相談所の一時保護所において相談・指導を受ける場合であって、当該児童の自立を支援する上で当該相談・指導が有効・適切であると判断され、かつ、以下の要件を満たすときには校長は指導要録上出席

扱いとすることができる。

- ① 当該施設と学校との間において、児童の生活指導や学習指導に関し、十分な連携・協力が保たれていること。
- ② 当該施設において、児童の状況に適した学習環境が整えられているなど、適切な相談・指導が行われていることが確認できること。

このような場合、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び当該施設において学習活動を行ったことを記入する。

(6) 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。

※ 上記の日数については、該当すべき日数がない場合には、空白とせずに0と記入する。

4 指導要録の参考様式

小 学 校 児 童 指 導 要 録 (参 考 様 式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分 \ 学年	1	2	3	4	5	6
学 級						
整理番号						

学 籍 の 記 録					
児 童	ふりがな		性 別	入学・編入学等	令和 年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年編入学
	氏 名				
	生年月日	令和 年 月 日生		転 入 学	令和 年 月 日 第 学年転入学
	現住所				
保 護 者	ふりがな		転学・退学等	(令和 年 月 日) 令和 年 月 日	
	氏 名				
	現住所		卒 業	令和 年 月 日	
入学前の経歴			進 学 先		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)					
年 度		令和 年度	令和 年度	令和 年度	
区分 \ 学年		1	2	3	
校長氏名印					
学級担任者 氏 名 印					
年 度		令和 年度	令和 年度	令和 年度	
区分 \ 学年		4	5	6	
校長氏名印					
学級担任者 氏 名 印					

様式2 (指導に関する記録)

児 童 氏 名	学 校 名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
		学 級							
		整理番号							

各 教 科 の 学 習 の 記 録										特 別 の 教 科 道 徳							
教科	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子							
国 語	知識・技能								1								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								2								
	評定																
社 会	知識・技能								3								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								4								
	評定																
算 数	知識・技能								5								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								6								
	評定																
理 科	知識・技能								外国語活動の記録								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	評定								3								
生 活	知識・技能								4								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								総合的な学習の時間の記録								
	評定																
音 楽	知識・技能								学年	学 習 活 動	観 点	評 価					
	思考・判断・表現								3								
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								4								
図 画 工 作	知識・技能								5								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								6								
	評定																
家 庭	知識・技能																
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定																
体 育	知識・技能								特別活動の記録								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度								内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6
	評定								学級活動								
外 国 語	知識・技能								児童会活動								
	思考・判断・表現								クラブ活動								
	主体的に学習に取り組む態度								学校行事								
	評定																

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1	2	3	4	5	6	項 目	学 年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公徳心							
総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項															
第1学年							第4学年								
第2学年							第5学年								
第3学年							第6学年								
出 欠 の 記 録															
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考									
学年															
1															
2															
3															
4															
5															
6															